

現代日本語における形容詞語幹の 音韻構造について ——音素分布の分析と考察——

入江 さやか

要旨

現代日本語において、実際に用いられている形容詞を選出し、その語幹の音韻構造について調査した。4冊の国語辞書のうち、3冊以上の辞書に掲載されている形容詞を選出すると、ク活用形容詞452語、シク活用形容詞272語、合計724語である。そのうちの和語650語について、出現位置別に音素分布表を作成し、和語3拍名詞と比較すると、語頭に現れる母音音素、子音音素は、和語3拍名詞、和語形容詞ともに、ほとんど同じであった。ただし、和語形容詞語幹末の母音音素は、著しく偏った音素分布を見せる。すなわち、和語2拍名詞の場合は、/i/ のあと、/a/ /e/ /o/ /u/ と続く。和語3拍名詞の場合は、/i/ のあと、次に多いのは、/e/ であり、続いて /a/ /o/ /u/ という順になる。名詞の場合は、/i/ /e/ で終わるものが多いと言える。それに対し、形容詞語幹の場合は、/a/ が最も多く出現し、/i/ /e/ はほとんど出現しない。

1. はじめに

以前、入江(1996)で、現代日本語における和語3拍名詞について、出現位置別に音素分布を調査し、その結果から日本語らしい語形について考察した。名詞のみにとどまらず、他の品詞についても同様の調査をすることによって、より日本語の音韻の特徴を明らかにすることができると思う。そこで今回は、形容詞を対象に音素分布表を作成し、和語3拍名詞との比較を通じて、現代日本語における形容詞語幹の音韻構造を明らかにしたい。

2. 調査方法

2.1 音素と拍

母音音素は、/a/ /i/ /u/ /e/ /o/, 半母音音素は、/j/ のみとし、それに続く母音音素は /a/ /u/ /o/ の3種とする。子音音素は、カ行/k/, ガ行/g/, サ行/s/, ザ行/z/, タ行/t/, ダ行/d/, ナ行/n/, ハ行/h/, バ行/b/, パ行/p/, マ行/m/, ラ行/r/, ワ行/w/^①とする。半母音は、母音に属し、撥音/N/, 促音/Q/ は、子音扱いとする。ザ行、ダ行は次のように設定する。

ザ行	/	za	zi	zu	ze	zo	zja	zju	zjo/
ダ行	/	da			de	do			/

本論では、音韻的長さの単位として、「拍」を使用する。日本語では、次のいずれかの構造を有する。/C/ は子音音素、/V/ は母音音素、/S/ は半母音音素、ア行音・ヤ行音は /C/ を \emptyset とし、撥音・促音は /V/ を \emptyset とする。

/CV/, /CSV/

また、特殊拍に、長音をたてず、母音の連続と見る。したがって、辞書に載っている項目の表記と音素は必ずしも一致しない。長音かどうかの基準は『明解日本語アクセント辞典』に従った。

2.2 調査対象

現代、用いられている形容詞として調査対象とするのは、次の4点の国語辞書のうちの3点以上に載っているものである。『広辞苑』(岩波書店、第4版 CD-ROM版 1995), 『大辞林』(三省堂、第2版 CD-ROM版 1996), 『国語

辞典』(旺文社, 第8版 CD-ROM版 1997), 『現代国語辞典』(三省堂 1988, CD-ROM版 1995)。これらは, すべて電子化されたものである。これら以外にも, 電子化された辞書はあるが, EPWING規約ではないため, 同一の検索ソフト「こととい」を使うことができない。したがって, 作業の便宜を図り, 上記の4点に絞った。

漢字表記によって, 見出し語の立て方が辞書によって異なる形容詞は, 『広辞苑』の見出し語項目に統一した。この調査は, 語形を調べるのが目的であるので, 使用頻度は考慮していない。したがって, 項目を最小限に押さえている『広辞苑』を基準にするのが妥当と考えたためである。

同音異義語の見出し語例

あつい

「篤い」 「厚い」 「暑い」 「熱い」	『国語辞典』
「篤い」 「厚い」 「暑い」 「熱い」	『現代国語辞典』
「厚い・篤い」 「暑い」 「熱い」	『大辞林』
「厚い・篤い」 「暑い・熱い」	『広辞苑』

このように「あつい」を4項目, あるいは3項目として扱っている辞書もあるが, 先述の理由により, 『広辞苑』の項目に統一して2語として収録する。

このようにして得られる形容詞は, 異なり語数724である。辞書の収録状態を〈表1〉に示す。

〈表1〉

広辞苑	大辞林	国語辞典	現代国語辞典	語数
○	○	○	○	600
	○	○	○	15
○		○	○	2
○	○		○	46
○	○	○		61

合計 724

なお, 724語のうち, 650語は和語である。残り74語は混種語であり, 外来語と和語からできた「ばたくさい」1語を除いて, 漢語と和語の組み合わせが

ほとんどである。

3. 現代日本語における形容詞語幹の音韻構造

3.1 拍数

このようにして得られた形容詞について、語幹の音韻構造を見る。形容詞語幹を、ク活用の場合は、語尾「い」の前まで、シク活用の場合は、語尾「しい」の前までとする。

拍数毎に分けると〈表2〉のようになる。下段の（ ）の中の数値は、上段の語数のうちに含まれる混種語の数を表す。

〈表2〉

2拍	3拍	4拍	5拍	6拍	7拍	8拍	9拍	計
6	87	163	222	183	56	6	1	724
		(13)	(21)	(22)	(15)	(2)	(1)	(74)

拍平均 (4.95)

ク活用

2拍	3拍	4拍	5拍	6拍	7拍	8拍	9拍	計
6	85	116	152	69	23	0	1	452
		(10)	(17)	(10)	(11)		(1)	(49)

拍平均 (4.59)

シク活用

2拍	3拍	4拍	5拍	6拍	7拍	8拍	9拍	計
0	2	47	70	114	33	6	0	272
		(3)	(4)	(12)	(4)	(2)		(25)

拍平均 (5.54)

ク活用形容詞の拍数の平均は、4.59拍、シク活用形容詞の拍数の平均は、5.54拍である。モード、中央値、四分位置、いずれでも1拍の差がある。全体として形容詞の拍数の平均は4.95拍である。

3.2 形容詞語幹の語頭の母音音素, 子音音素

形容詞語幹の語頭の母音音素の分布は〈表3〉のようになる。左列の数值は頻度を表し, 右列の数值は百分率を表す。〈表3〉の下に示した和語3拍名詞は入江(2002)を改訂したものである。^②

〈表3〉

	a		i		u		e		o		計	
	頻度	百分率	頻度	百分率	頻度	百分率	頻度	百分率	頻度	百分率	頻度	百分率
ク活用和語	129	32.0	76	18.9	68	16.9	47	11.7	83	20.6	403	100.0
〃 混種語	8	16.3	12	24.5	8	16.3	9	18.4	12	24.5	49	100.0
ク活用 計	137	30.3	88	19.5	76	16.8	56	12.4	95	21.0	452	100.0
シク活用和語	75	30.4	48	19.4	46	18.6	17	6.9	61	24.7	247	100.0
〃 混種語	7	28.0	10	40.0	2	8.0	1	4.0	5	20.0	25	100.0
シク活用 計	82	30.1	58	21.3	48	17.6	18	6.6	66	24.3	272	100.0
形容詞和語	204	31.4	124	19.1	114	17.5	64	9.8	144	22.2	650	100.0
〃 混種語	15	20.3	22	29.7	10	13.5	10	13.5	17	23.0	74	100.0
形容詞 計	219	30.2	146	20.2	124	17.1	74	10.2	161	22.2	724	100.0

	a		i		u		e		o		計	
	頻度	百分率	頻度	百分率	頻度	百分率	頻度	百分率	頻度	百分率	頻度	百分率
和語3拍名詞	952	29.6	703	21.8	511	15.9	346	10.7	708	22.0	322	100.0

〈表3〉を見ると, 形容詞和語の語頭に現れる母音音素は /a/ /o/ /i/ /u/ /e/ の順に頻度が高いことがわかる。混種語では, /i/ /o/ /a/ の順で異なりをみせるが, 全体としては, /a/ /o/ /i/ /u/ /e/ の順になる。下の和語3拍名詞と比べると, 順位だけでなく比率もほぼ同じ結果である。語頭に出現する音素は和語3拍名詞, 形容詞ともほぼ同じだと言ってよいだろう。

次に、語頭の子音音素の分布は〈表4〉のようになる。左列の数値は頻度、右列の数値は百分率を表す。

〈表4〉

子音	形容詞		形容詞		形容詞		和語	
	頻度	百分率	頻度	百分率	頻度	百分率	頻度	百分率
∅	178	27.4	11	14.9	189	26.1	814	25.3
k	118	18.2	13	17.6	131	18.1	511	15.9
g	3	0.5	5	6.8	8	1.1	9	0.3
s	66	10.2	14	18.9	80	11.0	329	10.2
z	5	0.8	6	8.1	11	1.5	10	0.3
t	59	9.1	1	1.4	60	8.3	372	11.6
d	9	1.4	3	4.1	12	1.7	49	1.5
n	64	9.8	2	2.7	66	9.1	283	8.8
h	56	8.6	4	5.4	60	8.3	392	12.2
b	2	0.3	6	8.1	8	1.1	15	0.5
p	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	0.2
m	78	12.0	6	8.1	84	11.6	377	11.7
r	0	0.0	3	4.1	3	0.4	2	0.1
w	12	1.8	0	0.0	12	1.7	52	1.6
合計	650	100.0	74	100.0	724	100.0	3220	100.0

〈表4〉を見ると、語頭における子音音素分布は、形容詞混種語では、異なる音素分布をみせるが、形容詞和語に関しては、和語3拍名詞とほとんど同じ音素分布であることがわかる。語頭においては、母音音素も子音音素も形容詞、名詞に関係なく、同じような分布をみせる。

3.3 形容詞語幹末の母音音素分布

形容詞語幹末の母音音素の分布は〈表5〉のようになる。

〈表5〉

	a		i		u		e		o		計	
	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合
ク活用和語	209	51.9	6	1.5	72	17.9	0	0.0	116	28.8	403	100.0
〃 混種語	31	63.3	0	0.0	9	18.4	0	0.0	9	18.4	49	100.0
ク活用 計	240	53.1	6	1.3	81	17.9	0	0.0	125	27.7	452	100.0
シク活用和語	160	64.8	15	6.1	25	10.0	11	4.5	36	14.6	247	100.0
〃 混種語	15	60.0	3	12.0	3	12.0	0	0.0	4	16.0	25	100.0
シク活用 計	175	64.3	18	6.6	28	10.3	11	4.0	40	14.7	272	100.0
形容詞和語	369	56.8	21	3.2	97	14.9	11	1.7	152	23.4	650	100.0
〃 混種語	46	62.2	3	4.1	12	16.2	0	0.0	13	17.6	74	100.0
形容詞 計	415	57.3	24	3.3	109	15.1	11	1.5	165	22.8	724	100.0

国立国語研究所の『動詞・形容詞問題語用例集』の「IV 語末からの逆引きによる動詞・形容詞の一覧」には、語幹末母音別にク活用、シク活用形容詞がそれぞれ挙げられている。ただし、単純語のみの調査なので数は少ない。それを、資料として、玉村(1973)は形容詞と形容動詞の見分け方として、語幹末の音素配列による分布の特徴を挙げている。それによると、「語幹末が /-ei/ ならば、形容動詞であって、形容詞でない、 /-ii/ になる場合は、いずれにしても、極端にまれである」などの特徴が述べられている。〈表5〉は、形容詞の語幹末の母音音素の特徴をよく表している。 /-a(s)i/ で終わる形容詞が57.3%で半分以上である。次に多いのが、 /-o(s)i/ で22.8%、次が /-u(s)i/ で、15.1%である。 /-i(s)i/ で終わる形容詞は僅か3.3%、 /-e(s)i/ で終わるものを見ると、ク活用は、なし、シク活用は11例である。その語例を挙げる。

(語例) うれしい, はげしい, めめしい, いかめしい, うらめしい, たけだけしい, とげとげしい, なれなれしい, はればれしい, ふてぶてしい, まめまめしい (11例)

上の11例のうち、7例は豊語である点が注目される。

次に、 /-i(s)i/ の語例を挙げる。

(ク活用) いい, くちい, 大きい, かわいい, ばばっちい, みみっちい (6例)

(シク活用) おいしい, きびしい, こいしい, さびしい, さみしい, びびしい, りりしい, わびしい, てきびしい, ういういしい, うらさびしい, かいがいしい, くちさびしい, にぎにぎしい, ひとこいしい, ものさびしい, れいれいしい (*), こころさびしい (18例) (*) れいれいしいの「れいれい」はエ段長音「れえれえ」になる場合もある。

シク活用の語例を見ると, 「きびしい」「こいしい」「さびしい」を後項要素にも持つ複合語が多いのが目立つ。「びびしい」「りりしい」「れいれいしい」は混種語であり, 「ういういしい」「かいがいしい」「にぎにぎしい」は疊語である。

以上, 形容詞の場合, 語幹末では偏った分布を見せることが数値で証明された。/a/ が半分以上を占め, /o/ /u/ と続き, /i/ /e/ はほとんどない。

3.4 形容詞語幹の音素分布

形容詞語幹末の音素分布について母音音素だけではなく, 子音音素との組合せ, つまり拍のことであるが, これについても調査してみた。すると, 次のような結果が出た。

現代日本語において形容詞の語幹末に出現しない拍

/∅a/ /∅e/ /si/ /se/ /za/ /zi/ /ze/ /zo/ /de/ /ni/ /nu/ /ne/ /ha/ /hi/ /hu/ /he/ /be/ /pi/ /pu/ /pe/

先述のように, 形容詞語幹末の母音で最も多いのは /a/ であるにも関わらず, 単独母音拍の /∅a/ は出現しない。また /n/ にも特徴が出ている。形容詞語幹末に表れる /n/ はそのほとんどが, 母音音素 /a/ を伴って出現する。/ni/ /nu/ /ne/ は出現せず, /no/ もク活用形容詞には出現しない。

3.5 和語名詞との比較

ここで, 和語3拍名詞における語末に現れる母音との違いを述べたい。和語3拍名詞における語末の母音音素分布表〈表6〉を載せる。和語名詞の場合, 語末に多く出現する母音音素は /i/ である。樺島(1957)によると, 和語2拍

名詞の場合も同じように /i/ である。和語2拍名詞の場合は、/i/ のあと、
 /a/ /e/ /o/ /u/ と続く。^③和語3拍名詞の場合は、/i/ のあと、次に多いのは、
 /e/ であり、続いて /a/ /o/ /u/ という順になる。全ての拍の名詞について
 まだ調査が終わっていないので、結論づけるのは早急であるかもしれないが、
 名詞の場合は、/i/ /e/ で終わるものが多いと言える。形容詞語幹はその独立
 性の高さから、形式体言として処理されることもあるが、^④語幹末に /i/ /e/
 がほとんどないことを考えると、名詞とは異なる音素分布をしている。語形と
 いう点から考えると、名詞とは異なる性格を持つと見てよいだろう。ただし、
 和語名詞の場合も、形容詞語幹の場合も /a/-/a/ が安定するのは同じである。

〈表6〉

	a		i		u		e		o		計	
	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合
和語3拍名詞	665	20.7	121	37.8	164	5.1	773	24.0	394	12.2	3220	100.0

4. おわりに

これまで、現代日本語における形容詞語幹の音韻構造について、和語名詞と
 比較をしながらその違いについて述べてきた。形容詞語幹の語頭においては、
 和語名詞、和語形容詞によって、音素分布の違いが見られないことがわかった。
 また、形容詞語幹末の母音音素は、偏った分布をすることが今回の調査でもわ
 かった。

今後、まだ調査していない品詞などの音素分布表を作成し、品詞ごとの音素
 分布の特徴を明らかにしたい。また、時代ごとの音素分布表も作成するつもり
 である。

注

- ① /w/ は半母音であるが、それに続く母音音素が /a/ のみであること、現
 代標準日本語では、拗音を構成しないことから子音扱いとする。
- ② 和語3拍名詞の数値は「現代日本語における和語3拍名詞の音韻構造」
 『同志社大学留学生別科紀要』第2号掲載の表に非掲載分の表の数値を足し、
 またオ段長音として出現する /u/ を /o/ に直して計算し直したものであ

る。以下、和語3拍名詞に関する数値も同様である。

- ③ 樺島忠夫(1957)「母音配列を調べる」(『計量国語学』2)。『明解国語辞典』金田一京助監修に収録されている現代語2音節名詞について調べたものである。
- ④ 時枝誠記(1950)『日本文法口語篇』の「形式体言」「形容詞」を参照されたい。また、永野賢(1951)は、語幹は体言として扱い、形容動詞と同じく、形容詞を1品詞として認めていない。

参考文献

時枝誠記(1950)『日本文法口語篇』岩波書店

永野賢(1951)「言語過程説における形容詞の取り扱いについて」『国語学』六

阪倉篤義(1966)『語構成の研究』角川書店

金田一春彦(1967)『日本語音韻の研究』東京堂出版

阪倉篤義編(1971)『講座国語史3 語彙史』大修館書店

西尾寅弥・宮島達夫(1971)『動詞・形容詞問題語用例集』国立国語研究所

鈴木一彦・林巨樹(1972)『品詞別日本文法講座4 形容詞・形容動詞』明治書院

玉村文郎(1973)「語形と語性」『日本語と日本語教育——文法編——』文化庁

金田一春彦監修・秋永一枝編(1981)『明解日本語アクセント辞典』三省堂

玉村文郎(1984)『語彙の研究と教育(上)』国立国語研究所

金田一春彦・林大・柴田武編(1988)『日本語百科大辞典』「V 音韻・音声」大修館書店

玉村文郎編(1989)『講座日本語と日本語教育6』「日本語の語彙・意味(上)」明治書院

飛田良文・浅田秀子(1991)『現代形容詞用法辞典』東京堂出版

拙稿(1996)「現代日本語における和語3拍名詞について——出現位置別に見た音素分布の分析と考察——」『同志社国文学』第43号

拙稿(2002)「現代日本語における和語3拍名詞の音韻構造——語構成別に見た音素分布の分析——」『同志社大学留学生別科紀要』第2号